

ます。**問** 国民健康保険料の賦課方式の変更について、⑦低所得者層等の負担が増えるが、どう認識しているか。④特別区長会等での審議内容を、区民や議会に公表すべきではないか。⑤どれくらいの世帯が負担増となるのか。

答 ⑦所得に応じて幅広く負担していただく方式のため、より相互扶助の理念にかなう算定方式と認識しています。④平成22年第1回定例会で報告しており、今定例会で経過を報告します。⑤現在、保険料率を算定しているところです。変更に伴い負担が増える方には、2年間の経過措置を実施し、負担軽減に努めます。**問** 保険料と一部負担金の減免を進めるとともに、資格証明書の発行は、まず非課税世帯からやめるべきではないか。**答** 減免は申請に応じて適切に対応していきます。資格証明書については、納付相談の機会を持ち、発行を減らすように努めます。**問** 国庫負担を大幅に増額するよう、国に働きかけるべきではないか。**答** これまでも区長会等を通じて国に要望してきました。今後も適切に対応していきます。

地域経済の活性化対策について

問 地元の事業者により住宅リフォームを行った場合に費用の一部を補助

する制度について、実施した自治体では、地域経済への波及効果が認められている。本区でも実施してはどうか。**答** 新たな財政負担など多くの課題がありますが、地域経済の活性化などの観点から研究していきます。

問 地上デジタル放送対策について、⑦工事の費用や依頼先などの情報を区民に提供すべきではないか。④東京スカイツリーからの電波状況についても想定しておくべきではないか。⑤国による生活保護世帯等へのアンテナ設置等の支援事業において、地元事業者を活用するよう、配慮しているか。

答 ⑦広報紙やホームページで情報提供するとともに、国と協力しながら相談会を実施してきました。④電波障害はおおむね解消されると言われていますが、具体的な想定はまだ難しいと考えます。⑤これまで地元事業者を積極的に活用するよう要望してきましたが、今後も、国の地デジチューナー支援実施センターを通じて、働きかけていきます。**問** 共通商品券事業を継続すべきではないか。**答** 現時点では、事業の継続は考えていませんが、経済状況等を的確にとらえ、効果的な商店街施策を推進していきます。



いぶきの会

た なか のぶ ひろ
田中伸宏

自転車対策について

問 自転車対策については、これまで20年もの間、繰り返し質問してきた。特に、いつでも、どこでも、誰でも利用できる共用自転車について、具体的な提案をしてきたが、この間どの程度検討したのか。また、今後の対応について伺う。**答** 平成14年度に自転車共同利用に関する社会実験を実施し、その結果を踏まえ、駐輪場やホテルを活用した共用自転車のシステムとして、コミュニティサイクルを16年度から導入しました。利用実績は年々増加しており、21年度は、延べ5万8,000台の利用がありました。現在

は、21年度に環境省と千代田区が実施した共用自転車の社会実験に基づき、その導入について、23区で勉強会を行っているところです。共用自転車の導入については、今後も、国、東京都など関係機関とともに協議、検討を重ねていきます。

東京スカイツリー開業イベントについて

問 東京スカイツリーの開業イベントとして、隅田公園や親水テラスを活用した「世界の屋台まつり」や「ビールまつり（水辺のビアガーデン）」を実施してはどうか。**答** 隅田公園や親水テラスを活用した開業イベントは大変有意義なものとして認識しています。来年3月に1カ月間、水辺空間を活用した「隅田公園オープンカフェモデル事業」を予定しており、本格実施に向けた検討を進めていきます。スカイツリーの開業イベントについては、今後、様々な形で台東区をアピールできるよう、検討していきます。



台東区議会自由民主党

たかもり きみこ
高森喜美子

保育園の待機児解消の取り組みとこどもクラブの整備について

問 平成22年3月に台東区次世代育成支援地域行動計画後期計画を策定し、保育サービスの充実等に取り組んでいるが、保育園の待機児解消に向けた取り組みの進捗状況について伺う。**答** 本年4月の「小島保育室」の開設に続き、台東区保育所等整備計画に基づき、11月に民間認可保育所「ゆらりん竹町保育園」を開設しました。さらに、平成24年4月の開設を目途に、区内3つ目のこども園を計画し、現在、関係者と協議をしています。今後も、保育所等に対する需要予測を踏まえ、待機児の解消に努めます。**問** こどもクラブ整備緊急3カ年プランでは、こどもクラブを可能な範囲で学校内に設置するとの方針のもと、6つの小学校区に緊急に整備するとしているが、計画どおりに実現することができるのか。**答** 現在までに2カ所のこどもクラブを整備し、残る4小学校区においても、鋭意検討を進めています。整備に際し、可能な限り小学校内に設置するという方針は変わっていませんが、学校によっては教室数に余裕がないという実態もあります。今後も小学校内での設置や民間の物件等の利用も考慮し、整備計画の推進に向けて最善の努

力をしていきます。

児童生徒の体力向上の取り組みについて

問 体力向上の取り組みとして、今年度から「一校一取組」を実施しているが、各学校では、どのような目標や計画のもとに進められているのか。また、課題は何か。**答** 全小中学校において「一校一取組」に着手しており、例えば「なわ跳び遊び」や「二重跳び20回」などに全校児童で取り組んだり、体育の授業で補強運動を取り入れるなど、基礎体力の向上に取り組んでいます。教育委員会としては、小学校低学年では、「いろいろな方向に走る」「低い障害物を乗り越える」などの具体的な目標を示しています。こうした取り組みの着実な実践・普及と一層の発展・充実が課題であり、体育の授業における補強運動の全校展開を目指していきたいと考えています。**問** 家庭や地域の方々に運動の必要性を理解してもらうことも非常に重要である。台東区ならではの子どもの体力向上作戦を、家庭や地域の理解と協力を得て進めることが必要と考えるが、認識と今後の対策を伺う。**答** 家庭・地域に対しては、学校だより等を通じて、学校の取り組み内容や家庭でも運動に親しむ習慣について、改めて働きかけたところです。さらに、東京都教育委員会が作成した啓発リーフレットや、文部科学省のホームページなどを大いに活用し、保護者が家庭で子どもと一緒に運動に親しむことにより、児童生徒の体力向上に資するよう努めていきたいと考えています。



台東区議会区民クラブ

いとう まんたるう
伊藤萬太郎

自治基本条例について

問 自治基本条例は、地方自治体の憲法ともいえるべき最高規範であり、その制定は、特色あるまちづくりを進める上で、大きなステップであると考えられる。既に、全国の地方自治体で自治基本条例の制定が進んでおり、23区においても、制定の動きが進んでいる。本区においても、自治基本条例について、具体的な検討段階に入るべきと考えるが、現在の進捗状況はどうか。

答 現在、先進自治体の事例の検討を行っていますが、地方自治法の抜本改正により、地方自治制度の大きな変更が予想されることから、あわせて国の動向の把握に努めているところです。今後も、自治基本条例の制定に向け、さらに検討を進めていきます。**問** 条例の制定段階から、区民参加による区民主導の体制づくりが肝要と考えるが、どうか。**答** 自治基本条例の内容はもちろん、検討・制定の過程も重要であると考えています。そのため、区民との協働の観点から、広く区民の皆様に参加していただく体制を構築し、策定を進めていきたいと考えています。**問** 区民参加による住民自治と、区民代表である議会をどのように位置づけて、進めていくのか。**答** 今後

の検討にあたっては、自治体の構成員である区民、議会、行政が協働し、三者が十分に連携をとって進める必要があると考えています。**問** 自治基本条例の制定は、本区にどのような効用をもたらすのか。**答** 区民、議会、行政それぞれの役割と責務の明確化、区民の区政参画、協働の促進などが期待されます。

「(仮称)ふるさと下町台東音頭」作成について

問 本区には台東音頭があるが、各地域の盆踊り大会などでも、あまり踊られていない。23区では、多くの区がそれぞれ音頭を持っていて、あらゆる会場で踊られている。本区においても、台東音頭を活用することで、区民の一体感や区民意識の高揚につながり、区全体の活性化に役立つと考える。そこで、現在の台東音頭に改良を加えるか、新たに(仮称)ふるさと下町台東音頭を作成してはどうか。**答** 各地域で行われているお祭りや盆踊りなどは、したまちの一体感を高め、区の活性化に大きくつながっています。その中で、台東区のふるさとを歌った音頭が地域に浸透していけば、区への愛着がより深まるとともに、全国に台東区をアピールするきっかけにもなると認識しています。(仮称)ふるさと下町台東音頭については、積極的に検討し、子どもからおとしよりまで親しめる、したまち台東区のシンボルとなるような音頭を作成していきたいと考えています。